三瓶山の地形模型

「古三瓶」と呼ばれる古い火山のカルデラ内に連なる 6 つの峰をまとめて三瓶山という。古三瓶が初めて噴火したのは約 10 万年前で、現在の周辺地形を構成する巨大な溶岩ドームが形成された。その後約 96,000 年を経て、その後の噴火により広大なカルデラ内に緩やかな環状を形成する 6 つの峰ができた。

三瓶の 4 つの高い峰の名前は親しみある呼び方で示されている。男三瓶（1,126 m）、女三瓶（953 m）、子三瓶（961 m）、孫三瓶（903 m）はそれぞれ「男」、「女」、「子」、「孫」を意味する。これらの 4 つの峰と太平山（854 m）は共に、約 4,000 年前の最後の噴火でできたものだ。6 つ目の峰、日影山（697 m）は三瓶山の可視部としては最も古く、約 2 万年前に形成された。

山のすべての側面にある登山道は頂上へと続いている。男三瓶山頂から子三瓶、孫三瓶、太平山、女三瓶の山頂へと、頂上にある環状の火口を横切りながら一周するルートもある。

晴れた日には、三瓶山から日本海や鳥取県の大山まで見渡すことができる。